



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース50号



平成28年度 催し物

毎月、さまざまな催し物を予定しています。夏休みは子供向けの体験学習が充実しています。

海苔に関するものや親子で楽しめる催し物などご用意して、皆様のご参加をお待ちしております。

開催日		催し物	対象	受付開始日
月	日・曜			
4	3日 (日)	海苔つけ体験	どなたでも	3月11日 (金)
	23日 (土)	海藻おしば教室	どなたでも	4月11日 (月)
5	15日 (日)	緑のカーテンを編もう	小5以上	4月21日 (木)
6	18日 (土)	あみあみペットボトルホルダーづくり	小5以上	5月21日 (土)
7	24日 (日)	浜辺の生き物探検隊	小3以上	7月11日 (月)
	28日 (木)	自由研究で海苔を調べよう	小3以上	
	31日 (日)	しかけて観察！ちびっこフジツボ実験①	小3以上	
8	2日 (火)	タペストリーをつくろう	小3以上	
	7日 (日)	しかけて観察！ちびっこフジツボ実験②	小3以上	
	10日 (水)	コースターづくり	小3以上	
	17日 (水)	ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう	小3以上	
	25日 (木)	貝がら工作	小学生以下	
9	28日 (日)	浜辺の生き物探検隊	小3以上	
10	10日 (土)	海苔簀づくり	小3以上	
	8日 (土)	海苔簀づくり	小3以上	10月1日 (土)
	29日 (土)	海苔と浜辺のガイドツアー	小5以上	
11	3日 (木祝)	「海の畑」上映会	どなたでも	当日先着
	27日 (日)	海苔つけ体験	どなたでも	11月11日 (金)
12	4日 (日)	海苔つけ体験	どなたでも	
	17日 (土)	海苔つけ体験	どなたでも	
1	9日 (祝月)	海苔つけ体験	どなたでも	12月21日 (水)
	21日 (土)	海苔つけ体験	どなたでも	
2	5日 (日)	海苔つけ体験	どなたでも	1月11日 (水)
	18日 (土)	海苔つけ体験	どなたでも	
3	4日 (土)	海苔つけ体験	どなたでも	2月21日 (火)
	12日 (日)	海苔つけ体験	どなたでも	

催し物の詳細は、区報およびホームページでお知らせしています。

申込み：区報掲載日の午前9時より電話にて申込受付。土日祝日も受付けています。

申込・問合せ先：大森海苔のふるさと館 電話：03-5471-0333



年間の催し物

年間の催し物の中から、主な催し物をご紹介します。

■海藻おしば教室

(10:00～、14:00～)

海苔や近くの浜辺の海藻で、海藻おしばを作ります。



■緑のカーテンを編もう(13:30～15:30)

海苔網の編み方を応用して、ゴーヤーなどを育てるための緑のカーテンのネットを紐で編みます。

■あみあみペットボトルホルダーづくり

(13:00～16:00)

海苔網の編み方を応用して、ペットボトルを持ち歩くネット状のホルダーをつくります。

■浜辺の生き物探検隊 (9:30～12:30)

浜辺の生き物の観察をして、海と私たちの関係を学びます。



■コースターづくり (13:30～)

海苔簀編みを応用しヨシでコースターを作ります。



■ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう (13:00～16:00)

■タペストリーをつくろう

(13:30～15:30)

海苔網の編み方を習って、その網に貝殻やビーズ、リボンなどを飾ってタペストリーを作ります。

■しかけて観察！ちびっこフジツボ実験

(13:30～15:30)

一回目はフジツボが付着する板を手作りし海中にぶら下げます。二回目は実験の結果板に付いたフジツボの赤ちゃんを観察します。



■貝がら工作 (9:30～、13:30～)

自然の貝がらを使って工作をします。

■海苔簀(のりす)づくり(13:30～16:00)

ヨシを使って海苔つけに使う海苔簀を作ります。手作り海苔簀で、昔と同じ海苔つけ体験ができます。

■海苔と浜辺のガイドツアー (13:00～)

ふるさと館の職員が今に息づく海苔の名残をガイドしながら、潮風が感じられる大森地域を歩きます。

■海苔つけ体験 (10:00～12:00)

一番の人気の催し物で、生海苔が収穫される冬限定の催し物です。生海苔から乾海苔をつくります。

小学生未満の幼児は、保護者が一緒に作業をお願いします。



ミニ・イベント

家族連れでお気軽にご参加いただけます。

主催：NPO法人 海苔のふるさと会

■絵本の読み聞かせ&公園散歩

季節に合わせた絵本の読み聞かせをした後、公園でお花や生き物を探しましょう。主に幼児対象です。

日にち：毎月第四火曜日 (9、12月は第三火曜日)

時間：11:00～11:30

■ひまわり・プロジェクト

館の周りにきれいなひまわりを咲かせましょう。

耕しの巻：4月16日 (土)

種まきの巻：4月29日 (金祝)、30日 (土)

水やりの巻：種まきから7月までの毎日

種とりの巻：9月22日 (木祝)

※水やり以外は、いずれも13:30～14:30先着順

■季節飾りと工作遊び

カブトづくり：5月4日 (水祝)、5日 (木祝)

七夕飾りづくり：7月2日 (土)

貝のおひなさまづくり：2月12日 (日)

※いずれも、13:30～15:30 (時間内自由参加)

■観察会「浜辺の小さな生き物たち」

日にち：6月4日 (土) 時間：13:30～15:30

■お月見コンサート

日にち：9月17日 (土) 時間：17:30～19:00

※小学生以上、要事前申し込み (8月より募集予定)

■その他にも！

※夏休み：のり検定 (海苔のクイズ)

※毎月：花壇の手入れ (5、11月は花の植え替え)



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」50号

平成28年4月1日発行

編集・発行 認定特定非営利

活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会
会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報 大森 海苔のふるさと館 ニュース51号

元海苔生産者 協力者会

協力者会は、地元の元海苔生産者の方々を中心に構成され、催し物の指導を始め、館の活動において重要な部分の指導を担っていただいています。協力者の方々の活動をご紹介します。



■協力者の方々

ふるさと館の活動は、地元の元海苔生産者である協力者によって支えられています。

協力者会は、各小学校で海苔つけ指導をしていた方々を中心に約60名でスタートしました。現在は、6つのグループに分かれて指導をお願いしています。また、元生産者のご子息など、海苔の仕事の経験がない方にも仲間に入ってもらい、技術の継承に努めています。

漁師特有の大きな声に大森言葉の方々ですが、とても義理堅く、今でも海苔の仕事に誇りを持っています。

■活動内容

* 催し物の指導—海苔つけ体験、海苔網を応用して作る「緑のカーテンを編もう」や「あみあみペットボトルホルダーづくり」、「海苔簀づくり」など、海苔の仕事を実験する催し物の指導



をしています。江戸時代から続く技術、効率的かつ美しく仕上げるための工夫、暮らしに役立つ知恵などが、元生産者から直接学べるとあって、いずれも人気の催し物です。

今年の新職員も早速指導をいいます。職員にとって、なうけました

* 催し物の材料、道具準備—参加者の目に触れる機会は少ないですが、道具や材料の準備には多くの時間と手間が掛かっています。

海苔つけ体験は、毎回1時間前に集合し、生海苔の準備や海苔つけ台の調整などを行っています。

海苔網では、事前に打ち合わせと練習会を行います。初心者でも楽しめる作品が作れるようにさまざまなアイデアを出し合い、何度も



アイデアと試作品を持ち寄り、5年かけて現在のオリジナル作品になりました

改善を重ねてきました。また、編むための編針と目板を竹と板で作っています。

海苔簀の準備は約2ヶ月

前から始まります。梅雨明けの猛暑の中、ヨシ刈り作業を行います。毎回総勢約20名、半日かけての屋外作業です。刈り取るヨシの選び方、刈り取り方などを教えてもらいます。その後、約1週間毎日ヨシを天日干し、乾いたら葉落としと長さの選定、太さの選別など、手間の掛かる作業を何度も続けてようやく準備が完成します。

また、職員への技術指導もしています。ほとんどの作業は経験が必要なので、毎年繰り返しコツを学んで今年の新職員も早速指導をいいます。職員にとって、なうけました

* 海苔の生育活動—大森ふるさとの浜辺公園では、毎年、協力者の指導で昔ながらの方法で海苔を育てる活動をしています。



夏のアク抜き作業に始まり、冬本番に網張り、海苔とり、4月のヒビ抜きと支柱抜きで終了するまで、準備も含めていくつもの作業があります。海での作業は更に難しく経験が必要なので、職員もまだ指導なしにはできません。協力者なしには成り立たない活動です。

今年の活動の様子



***海苔の聞き書きなど**



昔の作業のお話はとても貴重です。技術的なこと、海苔生産者の暮らし振り、当時の大森の様子などさまざまな内容が詰まっています。これらのお話は書き残して、見学や催し物などの際に職員を通して

来館者の皆さんにお話しています。

また、一人ひとりにお話を聞き、記録に残す聞き書きも始めています。これは「聞き書き・大田区民の会」との協働事業として行っています。



***その他**—テレビ、新聞など元海苔生産者へのインタビュー依頼、まち歩きなどの講師役、海苔の作業全般の相談など、ふるさと館の活動の一つ一つが協力者の支えで成り立っています。

■地域の歴史と伝統を、地域で受け継ぐ

海苔の終焉から54年、ふるさと館の開館から8年が経ちました。現在の課題は、協力者のほとんどが80代とご高齢になっていることです。

開館当初より海苔生産者のご子息を中心に後継者の養成を行いました。そのかいかあって、現在は経験者と同じように指導に当たっています。しかし、時間の経過は避けられず、今後も地域の歴史と伝統を受け継いでいく人数の減少が予想されます。

(五十嵐)



**求む！
海苔の伝統を
受け継ぐ
仲間たち**

日本一を誇った大田区の花巻の歴史と伝統を伝える人を育てることが、今、必要です。ふるさと館では、この活動に加わってくださる方を求めています。かつて海苔づくりを見て育った方、子どもたちの学びをサポートすることに興味のある方、この活動に関心のある方は、ぜひご連絡をお寄せください。お待ちしております。

電話：03-5471-0333 (大森 海苔のふるさと館) 担当：五十嵐



新職員のごあいさつ

滝本 彩佳

小さい時から海が大好きで、家族旅行といえば海水浴・磯歩き・水族館でした。大学では海苔の仲間の藻類である珪藻を研究し、南極海で一か月間の調査航海に同行しました。ダイビングや磯の潮だまりで海藻や魚を見ることが趣味です。

品川区で育ち、品川・大森・羽田・糀谷の海苔の歴史には親しみがあります。伝統である海苔つけの技術を身につけ、多くの方にお伝えしたいです。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

高橋 麻衣

大学では日本史を専攻しており、安政江戸地震について研究していました。趣味は、城跡巡りとバレーボールが中心です。

海なし県育ちのため、館での作業は全てが新鮮で、とくに海苔の生育作業については学ぶことばかりです。海苔や大田区の歴史についてはまだまだ未熟ですが、ゆくゆくは多くの方に魅力を伝えていきたいと思ひます。精進してまいりますのでよろしくお願ひ致します。



舟越 寿尚

大阪生まれ大阪育ち、オーストラリアに1年間滞在したほか、これまでずっと大阪住まいでした。

学生時代は人文地理学を専攻し、「グローバルに考え、ローカルに学ぶ」をポリシーとして研究を行ってきました。今後もこのポリシーを貫きながら、大森のこと、海苔のこと、日々学び、世界に向けて紹介できればと考えています。地域のみなさまから、学び教わる機会が多々あると思ひますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」51号

平成28年6月1日発行
編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

**海苔のふるさと会
会員募集中!!**

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース52号

てく海苔と浜辺のまち歩きガイド 所要時間約20分 コース①

館の周辺をお散歩してみませんか。海苔や浜辺の面影が分かる場所を数回に分けて紹介します。

① 日本特殊鋼跡

現在の美原高校、都営団地、大森東小学校などが立ち並ぶ一帯にあった工場。内川の河口を埋め立て、大正5年(1916)に創業した。昭和51(1976)年まで産業機械の合金の製造を行っていた。



② 内川

元は北馬込を水源とする川で、かつて河口近くには海苔船や漁船などが係留されていた。現在はプロムナード整備され、人々の憩いの場となっている。

③ 海難供養塔

安政2年(1855)に江戸市中の魚貝業者などによって再建された水死者の供養塔。東京湾沿岸では屈指の規模。

日本特殊鋼ができるまではこの辺が海岸線で、小高い塚の上に塔が立っていた。

地元ではムエン様と呼ばれ、貝漁師や海苔生産者が三原講をつくり、現在も供養を続けている。



④ 大森東図書館

大森の歴史や海苔に関する本が充実し、調べ物には最適。
電話：03-3763-9681

⑤ 都掘公園

日本特殊鋼の西側から北側にあった都掘を埋めた公園。都掘には貝漁の船や打瀬船が多く係留していた。現在の競艇場のあたりは砂地で、魚や貝のいい漁場だった。



⑥ 大森東小学校

昭和57年(1982)創立。昭和51年に日本特殊鋼工が閉鎖されると跡地には都営団地などが作られ、小学校が開校した。現在、学校で冬に海苔つけ体験の授業が行われている。

⑥ 佃浅商店

明治17年創業の佃煮店。首都圏の百貨店にて佃煮・惣菜を販売。

⑦ 貝漁師

内川や都掘の周辺は貝漁師が多く、最盛期は50人近くいた。大森最年長83才の貝漁師もいる(現在は漁はお休み中)。



初回はふるさと館から徒歩10分圏内を紹介。小学校の西側は貝漁師やむき身屋が多く住む古からの集落で、東側は河口を埋立てて大規模工場が作られた地域でした。

(五十嵐)

パクパク おすすめランチ情報

大森ふるさとの浜辺公園売店

地元の商店街が運営。焼きそばなどの軽食や飲み物など。
 営業時間：10：00～16：00
 営業日：土日祝
 場所：浜辺橋を渡った浜辺エリア（のぼりが目印です）

コンビニエンスストア

美原通りに数軒あり。

喫茶店 HABOS(ハボ)

庶民的な喫茶店。ランチが充実。
 電話：03-3766-6208
 営業時間：11:00～21:30
 定休日：月曜日
 場所：美原高校南側の団地1階



楽香苑

中華料理店。ランチが充実。
 電話：03-6824-3515
 営業時間：11:30～15:00、17:00～23:00
 定休日：日曜日
 場所：美原高校南側の団地1階

他にも、環七通りや第二国道や平和島駅前などに、人気ラーメン店が多くあります。



祝 入館者70万人!

皆様に愛されて9年目！
ありがとうございます！

平成28年7月16日（土）、20年4月に開館して以来8年で来館者数が70万人を超えました。同じような施設としては類を見ない来館者の多さで、年々増え続けています。ちょうど今年は大田区政70周年にあたる記念の年でもあり、二重にめでたい出来事となりました。

70万人目は、友人同士で来館した大田区在住の横山さんと岡本さんでした。松原大田区長より記念品を贈呈し、運営にあたる海苔のふるさと会の中村副理事長や居合わせた他の来館者の方々と共にお祝いしました。偶然にも、二人は日ごろから散歩のついでに足しげくふるさと館に来て、水槽の魚をくださったり海の話をしてくださったりしている方でした。このことから大森 海苔のふるさと館が地域と

もにある施設だということがわかります。

江戸時代から続く大田区沿岸での海苔生産の歴史が昭和37年に幕を閉じてから50数年が経ちましたが、それでもいまだに海苔は地域のシンボルとして健在で、地元の方はもちろんのこと遠方からも非常に多くの方々が来館されています。当館の1、2階には、最後の海苔船である伊藤丸をはじめとして国の重要有形民俗文化財に指定されている貴重な道具類の展示を中心に、子どもが自ら楽しく学べる展示もあります。また、元海苔生産者の皆さんやボランティアの方々の協力を得て毎月、大人も子どもも参加できる楽しい体験イベントを実施しており、毎回人気を博しています。

3階の展望室からは人工の浜辺が見え、時には羽田空港を離発着する飛行機も見ることができます。平和の森公園から大森ふるさとの浜辺公園に続く広い公園エリアの中心という立地の良さもあり、憩いの場にもなっています。

これからも、大森 海苔のふるさと館が学び・憩い・交流のできる場として魅力あふれる施設となるよう、職員一同頑張っていきたいと思っております。最後になりましたが、常々ご協力、応援を頂いている皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。（小山）



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」52号

平成28年9月1日発行
 編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
 連絡先 東京都大田区 平和の森公園2番2号
 TEL 03-5471-0333
 FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース53号

各地から海苔生産の情報

現在は、北は宮城県から南は鹿児島県まで、海苔の生産が行われています。秋になり、北から順に海苔のシーズンに入ってきました。各地の海苔生産の状況をご紹介します。

宮城県東松島市

宮城県漁協矢本支所では、8月中旬から9月上旬に陸上採苗を行いました。種（孢子）が付いた網は水温が下がるまで冷凍庫で保管します。



陸上採苗

その後、9月20日の解禁日から約20日間、松島湾に種網を張り育苗します。

10月中旬、網を漁場に移動して本養殖が始まりました。この地域の漁場は外湾に面しているため、波が穏やかで川の栄養が豊富な内湾で育苗してから、外湾へ移して本養殖という二段階を経るそうです。

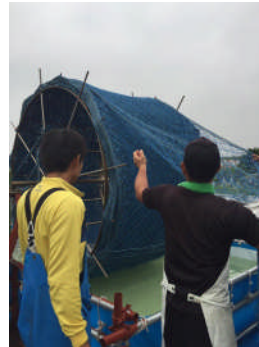
10月25日には初収穫。全国に先駆けて収穫シーズンに入りました。

写真・協力：相澤太氏



初収穫

千葉県富津市



陸上採苗

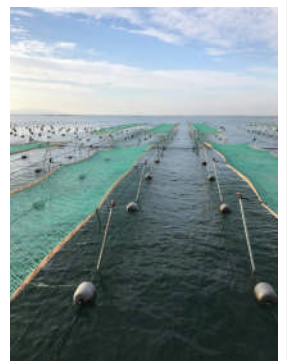
新富津は、千葉県の5割強を生産する有力産地です。

今年9月中旬に陸上採苗を行いました。「陸上採苗」は、水槽の中に糸状体が入ったカキ殻を入れ、海苔網を巻きつけた水車を回転させて孢子をつける方法です。

10月10日ごろに漁場に種網を張って育苗しました。約20日後には目で確認できる長さに成長し、育苗が終了です。そのまま育成に入る網（秋芽）を除いて、-30℃の冷凍庫で保管します（冷凍網）。

例年通りであれば、初収穫は11月中旬の予定です。

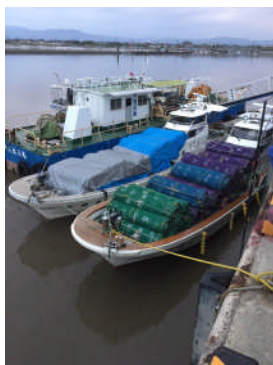
写真・協力：新富津浅海増殖研究会



育苗

福岡県大川市

10月17日、九州の有明海では海苔の種付けが行われました。福岡県大川市にある大川漁業協同組合でも、その日は早朝から海苔漁師達が船に海苔網をたくさん載せて一斉に海に向かいました。有明海では、海苔網に取り付けた「落下傘」と呼ばれるビニール袋に糸状体が入ったカキ殻を入れ、海に張り出す「野外採苗」が行われています。



海苔網を積んだ船

孢子が網にしっかり付着する日数や孢子の付き具合は、水温や海の状況によってまちまちなので、毎日海苔網から網糸を切ってきて顕微鏡で見えています。孢子が少なすぎると収量が少なくなり、多すぎると逆に病気になりやすく、成長しにくくなるため、チェッ

クは欠かせません。今年は少し付着に時間がかかり、例年よりは「落下傘」を取り外すのが遅れた人が多かったそうです。

そして10月28日、肉眼でも確認できるくらいまで海苔が成長しています。今はポンプを使つての海苔網洗い、網を水面に出して適度に乾かす干出作業を行っています。種付けからおよそひと月後には、初収穫を迎える予定です。

写真・協力：大川漁業協同組合

（三好）



海苔網に落下傘を下げる野外採苗

元海苔生産者の思い出

海苔つけ体験などの指導をしていた協力者の方々から、かつての思い出や海苔の作業などのお話をお伺いしています。その中から、二組の方々の貴重なお話をご紹介します。

■平林勲氏■

平林勲さん（昭和9年生まれ）は、小学生から舟に乗って家の手伝いをし、14、5歳には家業の海苔生産に携わるようになりました。



<千葉の種付け>

9月末になると千葉に種付けに行きました。種は当たり外れがあるので複数の漁場で種付けをし、その度に千葉と大森を往復しました。漁場を借りるので、網を4~5枚重ねにして張りました。

10月末に種がついた網を取りに行くと、千葉ではもう海苔とりをしていて驚いたものです。当時は全員分のゴムのズボンはなく、若い衆はボータを着たまま腰まで水に浸かって作業しました。

種が付いた網は黒くなっていて、収穫を期待し心が弾んだそうです。それを大森の漁場に持って来て張ると、11月末ごろに手入れ（その年最初の海苔とり）でした。

<大森海苔研究会>

昭和24年、青年たちによって大森海苔研究会が発足しました。平林さんは親戚関係の人に声を掛けられ、30歳代の先輩たちに混じって20歳過ぎでメンバーに加わったそうです。

昭和20年代に海苔の生態が明らかになり、研究会でも盛んに人工採苗の研究が行われました。種をカキ殻に付けて培養するまではうまくいきましたが、種付けには至りませんでした。春先に種を付けたカキ殻は、秋の種付けまで軒下などの日陰に置き、一週間に一回海水を取り替えました。船を出して塩分が高い沖の海水をくむのですが、手間を惜しんで船着場でくみ、種をダメにしてしまうこともあったそうです。

（五十嵐）



平林勲氏が保管していた当時の海苔の研究雑誌

■田中武志氏、良弼氏、信輔氏■

田中家では四兄弟の内、長男の武志さん（昭和10年生まれ）と次男の二人が海苔生産に携わっていました。三男良弼さんと四男信輔さんも、兄たちの仕事を手伝い身近で見て育ちました。



<海は子どもの遊び場>

今の昭和島の辺りには中之島と呼ばれた干潟があって、潮干狩りもできました。夏になると中之島まで泳ぎ、貝などを採って遊んでいました。貴船掘の水も清く、魚と一緒に泳いでいたそうです。

<海苔の乾燥場>

戦後になると、雨天時に海苔を乾かすための乾燥場（小屋）が主流になりました。田中さん宅には、当時の乾燥場が今でも残っています。ダルマストーブに石炭をくべ、つきっきりで乾かしました。室内は40℃近くの暑さでした。天井の釘に杵干しをぶら下げて、一度にたくさん干せるように工夫していました。現在は物置小屋として使っていますが、当時の釘やストーブを置いたコンクリートの跡が今でも残っています。

<波トタンのアパート>

ご兄弟のお父さんは、板金を営んでいました。海苔の生産が終わると、母屋を建て替えたり、海苔干し場にアパートを建てたりする家が増えました。当時は波トタンが建築材として人気があり、青い波トタンのアパートを多く扱ったそうです。そうした風景も今ではほとんど見られなくなりました。

（五十嵐）



田中家に今も残る海苔の乾燥場

認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」53号

平成28年11月1日発行
編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

**海苔のふるさと会
会員募集中!!**

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報



大森 海苔のふるさと館 ニュース54号



新年のご挨拶

海苔のふるさと会 理事長

鳴嶋享郎

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、館発展のためご尽力いただきありがとうございます。心から感謝申し上げます。

昨年も多くの方にご来館いただき、七月には大田区制七十周年の年に来館者七十万人を達成することができました。区長ご臨席のもと、式典を開催し、七十万人の方に記念品を贈呈しました。

館外では大森第一小学校の研究授業や大田区の地域講座、港区お台場学園の授業などで、職員がゲストティーチャーを担当したり、東京港野鳥公園のイベントや多摩川河川敷の大田区環境パネル展、東京湾大感謝祭など、外部のイベントにも積極的に参加し、館のPRに努めました。

また、館ボランティアのはまどの会のメンバーが増え、活動が活発になってきました。海苔の技術習得に加え、指導に意欲的な方もいて、館の継承活動の一翼を担っています。今後も仲間を増やし、館のより一層の発展に努めてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



開催中

企画展

「写真で語る海苔づくりの一年」

会期：～平成29年4月16日（日）

時間：9:00～17:00 <入館無料>



12月20日に、協力者の指導でふるさとの浜辺公園に海苔網を張りました。海苔の芽はまだ約2ミリ程度で、15センチほどに成長したら収穫する予定です。

干潮の時間には浜辺からも黒い海苔網が見えますので、ぜひ海苔の成長具合を見に来てください。





去年はこんなニュースがありました！ — 本年もよろしくお祝い申し上げます —



2月

浜辺公園で海苔の収穫

浜辺公園で行っている昔の方法による海苔生育活動は、2月8日に生海苔の収穫をすることができました。5月12日には区長を訪問し、報告しました。



4月

新職員3名が仲間入り

新職員3名が仲間入り。元生産者の方々に海苔の技術を学んでいます。学校見学で説明をしたり、海苔つけの指導をしたり、日々成長中です。

企画展

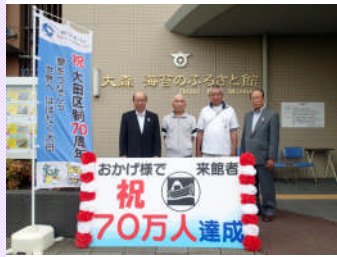
ポスター・チラシ作成

今年から、年3回の企画展のポスターとチラシを作成し、区設掲示板や区内施設などで掲示・配布しています。企画展の内容をより多くの方に分かりやすく伝えられるようになりました。ぜひ、企画展においでください。

7月

来場者70万人セレモニー

16日に来場者が70万人を超え、記念のセレモニーを行いました。70万人目の方に大田区長より記念品を贈呈し、盛大に祝いました。



通年

テレビ・ラジオ、雑誌などで紹介

- 1月 読売新聞 元海苔生産者の取材
 - 2月 「シティニュース大田」海苔つけ紹介
 - 3月 「東京 自然を楽しむウォーキング 大人の遠足BOOK」 (JTBパブリッシング)
 - 3月 読売新聞「ミュージアムへ行こう」館紹介
 - 4月 読売新聞「The Japan News」海苔つけ紹介
 - 8月 日本経済新聞「首都圏まるかじり」
 - 8月 東京新聞「東京どんぶらこ」館の紹介
 - 11月 テレビ朝日「極上！旅のススメ」写真貸出
 - 12月 全国海苔貝類漁業協同組合連合会「海苔タイムス」イベントの紹介
- …他にも多数のメディアで紹介されました…

通年

外部のイベントに参加・協力

- 1月 「お台場学園港陽小学校」出張授業
- 2～3月 本庁舎「ミュージアム共同展示会」展示
- 5月 「東京港野鳥公園フェスティバル」工作
- 5月 「多摩川河川敷清掃活動～グリーンアクションたまがわ～」パネル展示
- 8月 「ラムサールシンポジウム2016」発表
- 10月 横浜赤レンガ倉庫「東京湾大感謝祭」展示
- 11月 東京港野鳥公園「里地里山フェスティバル」
- 11月 「大森第一小学校」3年生研究授業に協力
- 12月 羽田「地域を語る会」展示解説協力
- 12月 「お台場学園港陽小学校」体験授業

海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」54号

平成29年1月1日発行
編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース55号

海苔づくりの一年

海苔づくりは、夏から秋にかけて準備作業を行い、冬に収穫をしました。主に、戦後から昭和38年までの海苔網での海苔づくりを中心に、一年間の作業をたどります。

夏 のりす 海苔簀づくり

7月のお盆過ぎに、海苔簀の材料のヨシを刈りに行きました。刈り取ったヨシは、干して長さとおさを揃えます。秋までに、夜なべをして数千枚の海苔簀を編みました。



海苔網を編む

海苔網編みは、雨天の日の仕事として一年中行いました。シュロやヤシなどの縄を網針あばりで編み、秋になると道縄みちなわをつけて仕上げました。



ば 場割り

海苔の養殖場は、漁業協同組合ごとに決められています。最初に丁場ごとにくじで場所を割り振り、その後、個人の場所をくじで割り振りました。組合と各丁場から人が出て、海に海苔養殖場を示す支柱を正確に建てる作業が連日行われました。

秋 タネつけ

9月の十五夜前後、彼岸花が咲く時期になると、千葉にタネ（胞子）を付けに行きました。昭和30年ころには各家で大型の海苔船を所有するようになり、船に海苔網を載せて千葉のタネつけの漁場に行きます。漁場に一度網を張り、約1ヵ月後の10月半ば過ぎにタネが付いた網を取りに行き、大森の漁場に網を移しました。作業着のまま腰まで海に浸かる辛い作業でした。



タネつけの合間には、漁場に支柱を建てたり、海苔干し場を作ったり、海苔本番の時期に向けて準備作業に追われました。



冬 海苔とり

11月末ごろに手入れ（最初の海苔とり）が始まります。

海苔船に小さなベカブネを乗せ、漁場に着くとベカブネに乗り換えて海苔とりをします。冬の間は、農閑期の季節労働者を雇うことが多く、浜の作業をする男性はシオトリと呼ばれました。

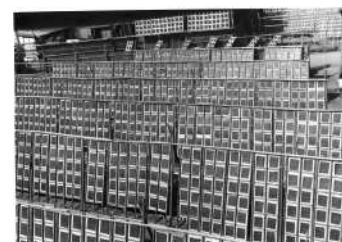
海苔は素手でないとすべるので、凍るような寒さでも素手で作業しました。

海苔つけ

翌日の午前2時ごろ、忙しい時期は夜中の12時ごろに起きて、まず海苔つけ場で海苔切りをしました。海苔切りの道具は時代によって変化しました。



切った生海苔は、水と混ぜて海苔つけをしました。その家の規模によって数千枚の海苔を作りました。



海苔乾し

日が昇ると、海苔簀につけた海苔を乾しました。直接天日に当てると縮んでしまうので裏から乾し始め、昼ごろに表に返して仕上げました。海苔乾し

しは女性の仕事で、季節労働者のホシッカエシも雇われました。

乾しあがると簀からはがし、10枚一帖にたたんで、1800枚入る平箱に入れて完成です。そのころ、海苔とりに出ていた男性たちが戻る時間になります。



夕方、海苔問屋が回ってきて入札する庭先入札が行われました。昭和28年には、漁業協同組合でまとめて入札する共同入札が行われるようになりました。

(五十嵐)

※写真はいずれも昭和30年代撮影。

江戸時代は木ヒビ、大正から昭和20年ごろまでは竹ヒビを海に建てて海苔を育てました。時代と共に技術が進歩し、作業も変化していきました。現在は、ほとんどの作業が機械化されていますが、厳しい冬の海で作業することには変わりはありません。

海苔の生育観察 今年度の海苔生育の報告

【12月末】

水温が十分下がった12月20日に、千葉でタネ（孢子）をつけて育苗し、冷凍保存していた海苔網を、大森ふるさとの浜辺公園（以下ふる浜）の海へ張り出しました。

約50年前には、大潮の日にタネのついた海苔網を張りましたが、現在の一般的な冷凍網は芽が弱いため、潮の干満の差が少ない日に張り出し、数日は干出を避け、水中に浸ったままにしています。そこで今年は小潮の日に張り出し、夜中に網が水面に出て凍らないよう、網の高さを低めにしました。そのおかげで、最初は1ミリほどの小さな芽が、順調に伸びていきました。

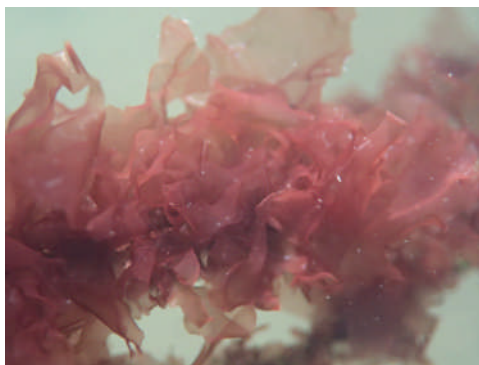
【1月】

年明けには葉っぱの形がはっきり見えるほどになっていました。吹きすさぶ北風にも負けず、何度も伸び具合を見に行き、高さの調整や鳥の食害を防ぐために防鳥ネットの設置を行ったところ、1月8日には1センチ、1月末には長い所で約5センチにも成長しました。



【2月】

2月に入り、このまま伸びれば中旬には収穫できるかも……と期待していましたが、しばらくするとその勢いも衰えてしまい、徐々に芽が無い部分が目立つようになってきました。ふる浜は、海面近くに真水が多いため、網の高さをかなり低くしてみました。しかし状態は良ならず、17日の収穫予定も網の観察だけで終わってしまいました。



ふる浜の環境が海苔生産地とは違い、海の栄養が少なく塩分が低いと思われることや、今年は気温が20度近くまで上昇するなど気温の変化がとても激しかったことが、不作の原因なのかもしれません。

【終わりに】

ふる浜での海苔生育は2年連続の収穫には至りませんでした。しかし今年は、はまどの会のメンバーが積極的に作業に参加し、元生産者の方々から作業の工夫やコツを教わりました。また地域の小学校の児童が、作業の見学・体験に来館しました。多くの方々にも海苔生育のことを知ってもらい機会になりました。今年の悔しさをバネに、来年こそ収穫を！



(三好)

**海苔のふるさと会
会員募集中!!**

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」55号

平成29年3月1日発行
編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区
平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347